5/9

大飯原発4号機再稼働反対！現地抗議行動

「命より金」の関電、消費者をバカにするな！

大飯原発4号機が再稼働された5月9日、「オール福井反原発連絡会」が呼びかけた抗議行動に参加しました。集合場所の海水浴場から原発ゲート前までデモをして、関西電力に再稼働中止の申し入れを行いましたが、残念ながら原発は午後5時に動きだしました。しかし、その翌日には原発内の機器から警報が鳴って出力上昇を中断するトラブルが発生しており、規制委の審査や関電の管理体制が充分でないことを示しました。

抗議行動の参加者はおよそ100名と小規模ではありましたが、原発はいらないという民意は確実にあります。中日新聞の調査では、大飯原発から5キロ圏内の小浜市住民の8割以上が廃炉を望むと答えた結果も出ています。

今回の再稼働で関電は電気料金を値下げし、露骨に「命より金」の経営方針を打ち出して、新電力に流れた客を取り返そうとしています。これを読んでいる方に関電から電気を買っている人はいないと思いたいですが、原発で値下げしても顧客が戻らないという現実を見せつけるためにも関電から卒業しましょう。消費者をバカにするな！

（高槻市議会議員　高木 隆太）

5/4

憲法フェスタ at いたみホール

一人ひとりが自分のこととして憲法を感じ考えること

メインの講師には、ネット上に広がった「保育園落ちた。日本死ね」のことを取り上げ、安倍首相を問い詰めた山尾志桜里さんを迎えました。憲法改正の話になると9条のことになりがちですが、今年は憲法25条から28条までにある教育や福祉に関わる私たちの暮らしに身近な社会権の話を軸に、現役の保育士さんや保育園に子どもを通わせるママ、弁護士でミナセンの活動もされているママたちとのトークセッションを中心に行われました。保育園に落ちてばかりで安心して仕事ができない話や保育士の待遇の問題など、出てくる話は、どれも身近な問題で、いかに憲法が蔑ろにされている社会になっているか、考えさせられる内容でした。

憲法は目には見えないですが、私たちの暮らしの根幹にあり、一人ひとりが自分のこととして感じ考えることがとても大切だと思います。憲法や反原発の集会をしなくても良い社会になればと思いますが、現実的には難しいので、これからもアカンことにはアカン！おかしいことにはおかしい！と言いながら活動を続けていきたいと思います。

（川西産直センター　谷 正充）

▲山尾志桜里さん

5/19

高槻で講演会

安倍『働き方改革』は最悪の働かせ方改革だ

5月19日、市民連合高槻・島本主催で森岡孝二氏の講演があった。氏は過労死防止に取り組んできた労働問題の専門家。著書「雇用身分社会」では、日本の現代社会は職種でなく雇用の形によって身分が分かれていると主張する。

1985年に成立した労働者派遣法は、労働者直接雇用の原則を破り、特定専門業務に限り間接雇用を認可したが、それまで職安法の事業規制を潜り抜けてきた派遣会社が合法化され一挙に広がり、現在派遣業は多くの職種で採用される一般雇用形態とみなされている。氏は、安倍「働き方改革」での裁量労働制拡大、高プロ創設は、成功した派遣法の手口そのままの焼き直しで、残業代ゼロの一般化を狙っている、と批判。更に時間外労働の上限規制については、日本の労働時間は欧米に比べ極端に長時間で、これまでの規制法制も実効性のあるものはなく、規制案でも甘すぎて過労死を防止できない、と一蹴している。

政府は「一億総活躍プラン」を掲げ、高齢者雇用促進、同一労働同一賃金、最低賃金引上げなどを提起、仕上げとして「働き方改革」を用意するが、改革を謳う政策と雇用の現実との乖離は進む一方だ。派遣・非正規雇用が急速に増大、違法または違法ぎりぎりという雇用現場の荒廃が続き、過重労働、過労死が頻発している。政府の労働政策は、こうした労働市場の急激な変化に全く追いついてゆけていないということだろう。

働く側にとっても、会社存続と共に自分と家族の暮らしが保障される時代は過去のものとなりつつある。年配者には当り前の終身雇用「正社員」ですら有期雇用「限定正社員」が導入されるなど、「まともな働き方」のできる選択の幅はどんどん狭くなっている。労働環境の変化に応じた法整備は必須だが、働く側からも「まともな働き方」の内実を労働の原点に立ち返って考え直すことも必要だろう。それにしても森岡氏の目指す「8時間働けば普通に暮らせる」世の中の実現はまだまだ遠いと思わざるを得ない。

（クリエイト大阪　小泉 圭）

▲森岡孝二さん

【リレーコラム】 政治と暮らし

ド田舎で考える、代議制民主主義の構造変動

先日、居住地域で自治会の年次総会がありました。庭先に鹿が訪れるような中山間地なので、総会も特色があります。主な議題は「今後の財産区の管理運営について」。「財産区」とは共有の山林です。報告事項も「農家組合、□□寺、××神社」となっています。農業を中心に職住一体となった地縁共同体のあり方が現在にも引き継がれているのです。

生地や職業の異なる人々が集まる都市部とは構成原理が異なりますが、かつては都市部でも大きな工場の近くには社宅があり、企業城下町では地域社会も会社の延長のようだったと言われています。たぶん1980年代までは、こうした状態が実質的に存続していたでしょう。

この時代、人々は地域や職場を通じて農協や労働組合といった中間団体に属していました。その中で個々の政治的な要求は集合的な要求としてまとめられ、それを政党が吸い上げて政策を打ち出す。人々はそれに賛成票を投じ、見返りとして政策の実現という利益を受け取る。いわゆる代表制民主主義が善かれ悪しかれ機能していました。

しかし、ここ数十年、田舎の地縁共同体はもちろん都市部の職場共同体も力を失い、人々は個人化の傾向を強めています。そのため無党派層が拡大し、これまでの代表制民主主義も機能しなくなっていきました。無党派層の「風」が選挙を左右するのも、その結果と言えます。

これから10年後どうなるのか？——財産区とも農家組合とも□□寺とも無縁な私は、総会の間そんなことばかり考えていました。

（地域・アソシエーション研究所　山口 協）

●●●●《共同利用・相互協力をつよめよう》●●●●《買う人が売る人に、売る人が買う人に》●●●●《販売ルートの相互紹介で事業の拡大を》●●●●

3・11を忘れない!!
㈲よつ葉ホームデリバリー奈良南
奈良県橿原市五井町148-1　会員募集中！
☎(0744) 21-7781　FAX(0744) 21-7782

人と人とのつながりを大切に!

地域で安心して暮らせる
まちづくりを
応援しています
㈱能勢産直センター
☎072-734-2100　FAX072-734-3951

誰もが
肯定感に包まれる社会を
関西よつ葉連絡会
㈱大阪産地直送センター
大阪市西淀川区千舟2-15-15
(0120) 63-0877　FAX(06) 6300-7481